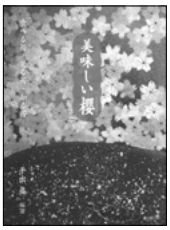
本棚ぶらり

「美味しい櫻 －食べる桜・見る桜・知る桜－」



平出眞（ひらでまこと）／編著　旭屋出版
2016年

江戸時代中期に花見が庶民の娯楽として広まると、桜の葉を利用した桜餅が生まれました。今や、桜は桜餅だけでなく、様々な食べ物に使われるようになりました。そして、桜を食べ物としても楽しむという日本の文化は、世界でも関心を集めています。

本書は、桜を使った全国各地のスイーツやお酒、料理などを鮮やかな写真を添えて詳しく解説しています。また、桜の図鑑や基礎知識に加え、花見の名所、名桜、桜の歴史などを紹介しており、桜の魅力をいろいろな方向から知ることができます。

人気シェフによる桜を使ったレシピも是非ご活用ください。

「チェリー・イングラム 日本の桜を救った イギリス人」

阿部菜穂子（あべなおこ）／著　岩波書店
2016年

遠く海を渡ったイギリスに、日本の桜の恩人がいた。

大英帝国の末期に活躍した園芸家、コリングウッド・イングラムは、日本の桜をこよなく愛し、自邸の庭園に広大な桜の園を設けました。イギリス中に日本の桜を広めたと言われる彼は、地元の住民から親しみを込めて「チェリー・イングラム」と呼ばれています。

桜を求めて日本を訪れた彼は、明治以降の急速な近代化や染井吉野の席巻で、日本独自の多種多様な桜が消えていこうとする様を目にします。危機感を覚えたイングラムは、日本社会に強い警告を発すると共に、日本では絶えた桜「太白（たいはく）」を自邸の園から里帰りさせることを決意します。

深い愛情と情熱をもって日本の桜を育成し、イギリスに広めたイングラムの生涯を、両国の歴史の証人となった桜とともに綴ります。

「サクラ図譜」

川崎哲也（かわさきてつや）／画　大場秀章（おおばひであき）／編
アボック社　2010年

川崎哲也（1929－2002）は、植物学者牧野富太郎（まきのとみたろう）と京都のサクラ品種収集家の第15代佐野藤右衛門（さのとうえもん）に師事して、サクラについての指導を受けました。特定の研究機関には属さずに、個人で研究を続け、多数の功績を残しています。また、教員として、旧浦和市の公立中学校で理科と技術科の授業を担当する傍ら、吹奏楽部の顧問を務め、熱心に指導したことでも知られています。

川崎が遺したサクラの写生図をまとめた本書は、図譜としてはもちろん、ボタニカルアートの作品集としても見応えがあります。写生図の中には、旧浦和市で採取されたサクラを描いたものもあります。花びらや葉の先端まで繊細かつ緻密に描画されており、川崎のサクラ研究に対する熱意がうかがえます。

サクラ研究に携わる人も、そうでない人も楽しませてくれる１冊です。

「桜の下で待っている」

彩瀬（あやせ）まる／著　実業之日本社
2015年

――柔らかく美しい指を握りしめて、怯えながら、高くて長い橋を行く。

大学生の智也（ともや）は、同じサークルの年上の先輩と付き合っていますが、サークルを辞めるかもしれない、という彼女の言葉に、心を落ち着けられずにいました。家族の反対を押し切って老いらくの恋に走り、今は宇都宮で暮らす祖母を訪ねた智也は、そこで祖母から前に踏み出す勇気をもらいます。粋な祖母と心優しい孫のやりとりが温かい、「モッコウバラのワンピース」のほか、４つの物語をおさめた、暖かい春の空気が匂い立つ短編集です。

宇都宮、福島、仙台、新花巻…と、北上する桜前線にあわせて、それぞれの土地を舞台に織り成される、ふるさとの物語をお楽しみください。